midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

April 2011 No.303-304

４月号の１枚：若柳嵐山のアオイスミレ

［巻頭言］未曾有の“東日本大震災”と・・・・森林を思う

こんな時こそ平常心で

先ずは、犠牲者の方々とそのご家族へ心からお悔やみ申し上げます、また被災の方々の悲嘆と今後のご苦労をお察しします。

誰にも予想ができなかった３月１１日の「東日本大震災」は今後、国の各種政策、地方自治、各種インフラに大きな転換を迫る事は必定と思う。様々な悲惨、流される家屋の痛ましさや原発事故等、自然の力に対し何と人力のひ弱なことか。正に日本への試練を感じる。

当会は相模原市に対して森林再生：「内陸・グリーンハブ都市構想」を提言しているが、今回の予想だにしなかった天変地異を体験したことで、提言の内容の見直し、再検討を余儀なくされている。担当部署には、再度、見直して取り組みたいと申し入れ同意を得た。その内容は、日本の産業構造や都市計画、行政の在り方、引いては、心の持ち方までの見直しに至るだろう。

地球の森林総面積が現在、約４０億haあり毎年、加速して減少する森林が、植林を差し引いて700～800万haとすれば、単純計算で「生命の根源：空気・みず」が確保できなくなる年限が出てくる。今回の大災害の延長線上に意識してよくよく、考えねばならぬ問題だ。

今月２０日の「若柳嵐山の森」定例活動は、こんな時こそ平常心で有りたいと、周りの情報収集を密にして、森林統括者とも相談の結果、通常通り実施した。何時もの人数が集まって納得できる成果を得て終了した。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.04

４月　３日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
４月１７日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

3月6日（第一日曜日）

今月の小原定例活動は、嵐山・小原の森に新たに導入された簡易製材機を使い、林内乾燥をした材を板に製材する班と、林内乾燥中の材の皮むきをして積み直す班の2班に分かれて活動をしました。

製材班では、緑のダムの方々の指導のもと、簡易製材機の仕組みや扱い方、製材時は継続的にチェーンソーを使うので振動障害等に気を付けることなど、注意点などを教えて頂きながら数本の丸太で試し切りを行いました。

簡易製材機を使った感想としては、レールやパイプを1つ1つ組立てていく段階で、道具の扱い方などの経験が少ないことから手間取ってしまう場面が見られ、怒られながらも丁寧に教えていただいた事を毎回確認し、これからの作業につなげたいと思いました。また、1本の丸太からあっという間に何枚もの板材を作れてしまうのに対し、機材の扱いが手軽だったことが印象的でした。道具を適切な方法で使うことで、安全に効率良く作業を進める事が出来ました。

最終的には厚さ1寸と2寸の2種類の製材を行い、計3本の間伐材を板にすることができ、直径30～40センチの丸太から平均3～5枚の板材を造ることができました。また、もう一方の材の皮むき・積み直し班でも、ほとんどの材をきれいに皮むきをして積み直したことで、小原の森の活動拠点はだいぶきれいになりました。

今回の活動を通し、簡易製材機の使い方を覚えたので、これからは使い方を共有して間伐材の活用につなげていこうと思います。

今後の活動がより楽しみになる定例活動でした。

植木　聡
（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

3月20日（第三日曜日）

「紫のクロッカスと中学生」

三寒四温の温かい日差しの今日、ガーデンには一輪の紫色の小さなクロッカス！、目を凝らすと周りに白と黄色の沢山のクロッカスが春を告げていた。

この日の参加者は、杉並区の中学生１６名、橋本高校１名、学生連合９名、生命の森５名、一般１３名、計４３名。朝の会では初めに東北大震災被災者に黙とうを捧げた。

森林整備班と生命の森宣言班は，Ａ地区の間伐と森の入口までの材の搬出。下りから上りの急経路には、コロを敷いて全員で渾身の力を込めて引き上げる。おみこしの掛け声も出て仕事は捗り、充実した成果を得る。

宮村先生の率いる中学生たちの積極参加が嬉しい。先ず、望星の森の倒れた杉を整理整頓後、下方の平地杉林の間伐に取り組む。午後は盛り上がって、ワッショ・ワッショと丸太の搬出、初参加の生徒たちは「ノコ引きは手が痛かった、力を合わせて運ぶ丸太出しは重かったけど楽しい！」との感想。

相模原市広報を見て参加の岡田さん、水上君（橋本高３年）は「予て興味を持っていたので貴重な体験になった」との事でした。

地元相模湖のハンズクラフト作家吉永さんは、今年９月・国際フォーラムで開かれる「国際ＵＩＡ東京展：チェアーシテイ部門」に出展する原木の下見に。「嵐山の森つくり」の感想を聞くと「森の手入が良くされていて、希望の未来が見えます」との嬉しいコメントを頂いた。

そう言われて改めて森を見まわしてみた。ウン、確かに美しく豊かな森に変身している！。

左：小原本陣の森より

中、右：若柳嵐山の森より

ボーイスカウトを養成されている初参加の浦島さん（井伊さんの知人）も帰りの「カドヤ会議」に加わり友達の輪で森づくりは広がって多彩な話で盛り上がった。

伊藤　小夜子（本会、会員）

[報告１]
グリーンハブシティ勉強会を開催

3月2日（水）

安藤直人東京大学大学院教授に講義をしていただきました。

「緑と木材産業の明日に架ける橋」

邦名は「明日に架ける橋」だが、英語のオリジナル・タイトルは「荒れ狂う水を渡す橋」とでもなるだろうか。

この原稿の依頼を受けたのが3月5日。督促が来たのが3月26日。
その間、わたしたちは、なんとすさまじい「Troubled Water」「荒れ狂う水」を見てきたことか。それでも、未来への希望の橋を架けるべく、安藤先生の、そして酒井先生の、平準なメッセージを暖かく思い出す。

風は、国産木材利用に向かって吹いている。超党派、全会一致での政治的意思決定が、続いている。「長期優良住宅認定制度」「公共建築物木材利用促進法」「木づかい運動」などなどである。現在の自給率28%を、2020年までに50%にまで高めようという目標も立てられた。

では、その政策や目標に応えるには、どんな課題があるのだろうか?

戦後の「切り過ぎ」時代から、高度経済成長、円高時代と、外材の輸入に圧倒されてきたせいで、日本国内では、担い手・流通・建築・林業など、木材にかかわるあらゆる局面で「失われたもの」があるのだという。まさか、知らなかった、という人も多いだろうが、昭和34年日本建築学会は、「木造建築をやめる決議」なるものを決定し、以来、建築士の資格をとるのに、木造建築にかかわる知識は問われることはなくなった!　恐るべし、業界団体。

ないないづくしで、お話が終わっては、わたしたちは「荒れ狂う水」に飲み込まれるばかりだ。Mr.ガーファンクル、希望はどこに?

基本的には、木材利用における変化は「木構造物」から「木質構造物」へということらしい。そうだ、横浜に行こう。横浜の大桟橋はくじらの形のような、大きな、大きな、木質構造物だ!　ふむふむ、あれのことなのだね。木質構造物の意匠、構造、積算、設計、施工管理などの経験知を積み上げていくこと。それができる人材を育成していくこと。経済で考えていけば、みんなが「価値」を見いだしているものを「商品化」することはできる。

「たちつてと」「さしすせそ」とヒントをたくさんいただいたが、紹介している紙数がない。原稿のしめはどの社会運動にも共通している「あいうえお」で終わろう。「あきらめない・イライラしない・うそをつかない・えらぶらない・おだてにのらない。」

災害を乗り越える力も同じこと。愛と、祈りと、動くからだと、笑顔と、音楽と。森を再建の柱にしよう!そのために、みんなの頭で考えよう!です。

かくた　なおこ
（ERIC国際理解教育センター）

[報告２]桂北小にてえんぴつ消しゴムベンチを製作

3月7日（月）

桂北小４年生１２名は、嵐山に入って「空気」「水」「土」をテーマに、自然体験をしてきました。最後に「間伐体験」で、杉の木を伐採しました。この間伐材を活用して、いすを作ろうとアイディアをみんなで出し合いました。

その中でみんなで作れそうな「鉛筆＋消しゴム」ベンチを作ることになりました。

重い丸太をみんなで運び出し、皮むきから丸太切り（丸太いす）をがんばりました。鉛筆も作りました。消しゴムは、板にする機械で丸太を半分に切ってもらいました。えんぴつの周りに丸太椅子を、二本のエンピツを消しゴムでつないで、ベルトでしっかり結びました。 ４年生１２名と先生が二人、合計１４人が座れました。最後の仕上げは、ヤスリなどで削り、透明な塗料で仕上げます。土に触れるところは、バーナーで焼入れします。みんなの憩いの場所になればと、これからが楽しみです。

斉藤　憲弘（本会、理事）

[報告４]フォレストノバ活動報告

ForestNova☆は、3月1日に環境省、＋ESDプロジェクト普及委員会が主催した「地球と地域の未来をつくる＋ESDプロジェクト・キックオフシンポジウム」に参加し、持続可能な社会づくりや地域づくり、人づくりについて行っている活動の事例発表とパネルディスカッションを行ってきました。ESDとは「持続可能な開発のための教育」（Education for Sustainable Development）の略称です。環境、人権、健康福祉、多文化共生、まちづくりなどをテーマとして、NPO、学校、企業などが行う持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながるすべての活動で、地域でいろいろな人と協力して地域の課題解決に取り組んでいるなど「地球と地域の未来をつくる」人づくり活動の事を言います。

森での活動から地域に関わり始めた事についての事例発表、パネルディスカッションを通して、学生がどのような活動を行っているか、また地域とどのようにして関わることができるようになったのかというのを中心に話しました。

このシンポジウムを通してForestNova☆が継続して地元地域へ関わる時、何が活動を支えてくれるのかと考えたところ、それは自分たちの整備している森だと思いました。先輩たちから引き継いだ活動フィールドを守ることでForestNova☆は地域等での様々な活動と関わることができたのではないかと思いました。また、今回のシンポジウムのような学生の行っている活動を発表できる場に参加できたことで森林問題について活動している学生もいるということを伝えられました。これからもこういった場を大切にしていきたいと思います。

植木　聡（Forest Nova☆）

3月2・3日に静岡県立大学キャリア支援センター主催の第一回学生団体フォーラム（DD2011）が、静岡県のもくせい会館で行われました。今回Forest　Nova☆では、1年生二名が代表として参加させていただきました。

参加団体は12団体で、様々な分野の学生団体が参加し、竹林問題や国会議員との飲み企画を立てている団体など、興味をそそられる学生団体ばかりでした。

そしてこのDDでは主に、社会を変える理想の学生団体について各々で考え、深め合い、それらを実現するためにお互いの団体の長所や、課題・問題点の改善方法の意見などをワールドカフェなどのグループディスカッションを通して共有し合い、団体同士のブラッシュアップを行いました。

このようなお互いを磨ける場とつながりを、これからも大切にして活動していきたいと思います。

竹内　翔容（Forest Nova☆）

[報告５]三井物産による出前授業報告

3月22日（火）、23日（水）

私が勤務する杉並区の中学の２年生を対象に三井物産環境社会貢献室の赤間さんと斎藤さんにおいでいただき、同社の冊子「モリノハナシ」を用いて取組みを紹介していただきました。ここまで映画「もののけ姫」を見ながら自然林と人工林、日本人と森の関わりについて考えてきました。では、実際にいま、日本の森ではどんな問題が起こっているのか、どのように行動すべきかなどについてお話しいただきました。多くの生徒が森に親しみを感じないまま暮らしているなかで、森の大切さ、森に生かされていることを理解できたようです。その中にはすぐに森で活動をしてみたいという感想を書く生徒もおりました。用意した積み木の輪切りもみな持ち帰られてしまいました。

３月までに参加してきた３年生も卒業後も継続して参加してくれると話してくれ、彼らとともに４月からはいよいよ「なみすけの森づくり」プロジェクトを展開したいと考えています。

宮村　連理（本会、理事）

[コラム]「森の話」
第3回　スミレの知恵

　山路来てなにやらゆかし菫草
　松尾芭蕉の残した句です。木々の冬芽のほころび始める頃、次々に花を開いていくのがスミレの仲間。スミレはタンポポやレンゲとともに春を告げる野草の代表で多くの人々に親しまれていますが、いざ種類を見分けるとなると花が目立つ割にはなかなか厄介な代物でもあります。日本には５０種ほどが分布するそうですが、今回は見分け方ではなく、スミレが生きのびていくために身につけた知恵についてお話ししようと思います。
　スミレは原生的な自然よりも、むしろ農村部のように人と自然とがうまく共存しているような場所に多く見られるようです。もちろん街中でも目にする機会はあります。石垣の隙間やコンクリートの割れ目からスミレが顔をのぞかせている姿をご覧になった経験をお持ちの方もおいででしょう。でも、なぜこんなところに？
　スミレの花柄は実が成熟すると上を向き、縦に３つに裂けます。ちょうどプロペラのような形です。そこに小さな種子がぎっしり並んでいて、果皮が乾燥すると勢いよく弾け飛びます。私が観察していた時には１ｍばかり飛びました。生育域を広げるための仕組みでしょう。しかし、これだけでは石垣の隙間にはうまく入り込めそうにありません。
　ここでアリが登場します。スミレの種子には種枕といわれる部分にエライオソームと呼ばれるアリの好む物質がついていて、種子は巣に運ばれていきます。アリはその後、エライオソームを種子本体から切り離し、残りはゴミ溜めに捨てられます。つまり、スミレの種子は肥料付きで地中に埋められることになるのです。スミレが思いもかけないところに顔を出す訳を納得していただけたでしょうか。
　さらに巧妙な仕掛けがあります。スミレの花の咲くのは春だと誰もが思っています。決して間違いではないのですが、正確とはいえません。春以降、花柄に緑色をした蕾のようなものがつく様子を観察できます。しかし、いくら待っても花は開きません。そのうちに、いつの間にか例の３裂した果実が目にとまることになるはずです。こんなことを秋遅くまで繰り返すのですが、それでは花はいったいどうなってしまったのでしょう？
　この蕾状のものは「閉鎖花」と呼ばれる花で、割ってみても花弁はありません。ここでは自分の雌しべの柱頭に自分の雄しべの花粉をつける、いわゆる自花受粉という繁殖方式がとられています。花弁もなく蜜もなく、少ないエネルギーで沢山の種子をつくれるのだから、これほど楽な方法はないはずです。
　では、スミレはなぜ春に目立つ花を咲かせ、昆虫の好きな蜜を用意するような労力の要る繁殖法を続けるのでしょうか。
　自花受粉では何世代を経ても遺伝的変異には限りがあります。このことは突然の環境の変化が起こった場合、対応しきれずに全滅してしまう恐れのあることを意味します。一方、春の花は昆虫を媒介として他の個体と遺伝情報の交換を行うため、遺伝的多様性を獲得できる利点をもっています。この場合、多くが滅びたとしても中には生き残る個体が出てくる可能性があるでしょう。つまり、閉鎖花は子孫を残す上での「量」を、普通の花は「質」を受け持っているのです。まさに両刀使いですね。
　可憐で、かよわいイメージのスミレ。そのスミレにこのようなしたたかな面があったとは驚きです。「俺たち植物はだてに生きてはいないぞ」という声が聞こえてきそうです。

内野　郁夫（本会、理事）

タチツボスミレ
もっとも普通に見られるスミレ

エイザンスミレ
葉が細かく切れ込みます

ナガバノスミレサイシン
茨城県以西の太平洋側に分布

[事務局からの
お知らせ、お願い]

第4回「森づくり・モノづくり」特別コンテストの審査会報告

去る3月18日（金）午前11時から、相模湖商工会と緑のダム北相模共催の「間伐材」と「FSC材」を生かした「森づくり・モノづくり」特別コンテストの審査会が相模湖商工会で行われた。4回目の今年は、9月25日～10月1日に世界中から1万人訪れる「UIA2011東京大会」のチェアシティ展参加の作品を選ぶ審査会でもあった。大人部門の応募総数は100点、子ども部門は150点であった。受賞作品の特徴として木材の粗野な質感をいかし都会に存在感を示すものが上位を占めた。上位受賞作品は、若柳・嵐山のFSC材を活用して、地元の木工職人の制作で、東京国際フォーラムなどに展示される。詳しくは次号で紹介。

雑誌「ソトコト」に本会のFSC積み木が紹介されました

ソトコト4月号（3月５日発売）の「自分にも社会にもギフトを。嬉しい！　社会貢献プロダクト。」のなかで、本会のFSC積み木が紹介されました。売上げが森林整備の活動資金に充てられること、二酸化炭素の固定に役立つことがコメントとして掲載されています。ウェブサイトはこちら。http://www.sotokoto.net/jp/latest/?ym=201104

「湘南の森」が神奈川新聞に紹介されました

3月11日の神奈川新聞に「森と楽しく付き合おう、湘南平ー高麗山間ルートのガイドマップをボランティア団体が作成」というタイトルで活動が紹介されました。平塚市、大磯町に広がる湘南平から高麗山にかけて続く東西約１キロのハイキングコースで観察することができる樹木や希少種の草花の名称などを写真つきで紹介しているパンフレットを作成、Ａ３判の両面カラー刷りには、ハイキングコース周辺で観察できる多くの樹木や草花などを名前と写真入りで掲載しています。ひらつか市民活動センターや高麗山公園管理事務所などで配布するだけでなく、周辺の学校にも配られる予定です。掲載されたウェブページはこちらから。http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1103100069/

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、マルモ出版